

1 題材名

固まった形から

2 題材の目標

A表現(1)イ		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
液体粘土で布を固めた形から想像を広げて立体に表すときの感覚や行為をとおして、動き、バランス等を理解するとともに、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。	布の形を変えたり固まった布の形を色々な方向から見たりして、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、自分のイメージをもちながら、どのように表すかについて考えることができる。	液体粘土で布を固めた形から想像を広げて立体に表す学習活動に主体的に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色等にかかわり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 布を固めた形から想像を広げて立体に表すときの感覚や行為をとおして、動き、バランス等を理解している。 ② 液体粘土や布、水彩絵の具等についてのこれまでの経験や技能を生かし、表したいことに合わせて表し方を選んだり組み合わせたりして、工夫して表している。	① 布の形を変えたり固まった布の形を色々な方向から見たりして、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、色や構成の美しさ等の感じについて、自分のイメージをどのように表すか考えている。 ② 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴等について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。	① 液体粘土で布を固めた形から想像を広げて立体に表す学習活動に主体的に取り組もうとしている。

4 題材について

本題材は、液体粘土で布を固めた形から、想像を広げて立体に表す活動をとおして、形の特徴を捉えて、発想や構想をする力を育むことを主なねらいとしている。

布を液体粘土に浸し、ペットボトル等の材料にかぶせたり、棒材や洗濯ばさみを使って上から吊ったりして乾燥させると、そのままの形に固めることができる。形のつくりやすさに加え、布が固まるという意外性が子どもにとっては魅力的で、主体的に、固まった形の手触りを確かめたり様々な方向から見たりする姿が期待できる。それは、自分なりに想像を広げながら、立体の製作に向けて発想や構想をしていく姿につながるだろう。

本題材をとおして自分のイメージをもって発想や構想を繰り返す活動は「自分にとっての意味や価値をつくりだす子ども」の姿につながるとともに、本校がめざす創造力や感性を育んでいくうえでも意義深い。

5 子どもについて

子どもは、第5学年題材「立ち上がれ！マイライン」で、アルミ針金を曲げたり立たせ方を工夫したりしながら思い付いた形を立体に表す経験をしている。そのなかで、動きやバランスを捉えることや自分のイメージをもって発想や構想を繰り返しながら製作することのおもしろさに気付いている。

図画工作科学学習においては、「いいこと考えた」と発想し「そのために〇〇してみよう」と構想することのできる子どもは多い。毎時間の導入時には、「今日は〇〇してみよう」と、進んで自分にとっての意味や価値を追求しようとする子どもがいる。一方で、次にどうすればよいか教師に尋ねる子どももいる。また、自分の作品の「ここがいい」と、意味や価値を見いだすことが苦手な子どももいる。そのため、一人一人が、自分にとっての意味や価値を追求したり、見いだしたりすることについては、指導を継続している。

6 子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導

○ 研究内容1：自分にとっての意味や価値を追求し続ける導入の工夫

本題材の導入では、不思議な形に固めた布を提示し気付きを発言させる。発言内容を、材料やつくり方に関する、形や色等の造形的な視点を基にした見え方に関する、更なる工夫に関するに分類し、製作の際に追求していく視点が分かるようにすることでゴールイメージをもったうえで製作し続けることができるようにする。

本時は展示と鑑賞を行う。展示の工夫については前時までに決定しているため、本時の導入は、意味や価値を見いだす研究内容2につながるものとなる。ただし、そこから展示の工夫についてのヒントを得た場合は計画を変更してもよいことを伝えておくことで、最後まで自分にとっての意味や価値を追求し続けることができるようにする。

○ 研究内容2：自分にとっての意味や価値を見いだすふりかえりの工夫

本題材においては、自分が「いいな」と思った布の形や設置してみたい展示場所を写真で記録させておくことで、自分にとっての意味や価値を見いだすための手がかりとなるようにする。また、場の設定により、仲間の様子を見たり工夫を尋ねたりしながら自分の製作をふりかえり、こだわりをもって製作することができるようにする。

本時は、自分の作品のこだわったところを記述させたり、仲間の作品を見て感じ取ったり考えたりした「よさ」を基に題名を付けさせたりする活動をとおして、互いの作品の意味や価値を見いだすことができるようにする。

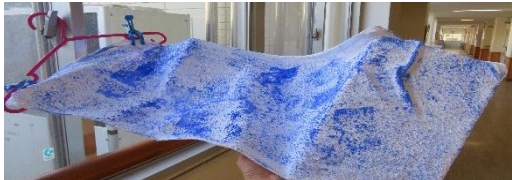
7 題材指導計画（5時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	主な教師のかかわり	知	思	態
生み出す (1)	1 固まった布の形を見たり、形のつくり方を試したりしながら想像を広げる。〈1時間〉 ○ 固まった布の形から  ○ 形のつくり方を試しながら 	○ 不思議な形に固めた布を提示し、気付きについて話し合わせることで、自分なりの見方で固まった形を見て、想像を広げることができるようにする。 ○ 気付きを分類し、製作の際に追求していく視点が分かるようにすることで、ゴールイメージをもったうえで製作し続けることができるようにする。 ○ 水でぬらして絞った布で形のつくり方を繰り返し試させる。その際、ペットボトルや棒材、ハンガー等の身近な材料を自由に使うことで、つくってみたい立体について想像を広げながら、主体的に試すことができるようにする。 ○ 自分が「いいな」と思った形をタブレット型端末で記録させておくことで、次時の活動時にふりかえることができるようにする。			①
			行動観察		
挑む (3)	2 布を液体粘土に浸し、布の形のつくり方を工夫してつくる。〈1時間〉 ○ 表したい形のイメージと形づくり 3 固まった布の形を見て、自分のイメージをもち、表したいことに合わせて、色や固定方法等を工夫して表す。〈2時間〉 ○ 表したいことのイメージ(1) ○ 表し方の工夫(1)	○ どのような形をつくってみたいか記録を基に考えを伝え合わせることで、仲間の考えをヒントに自分のイメージを広げることができるようにする。 ○ 固まった布を展示してみたい場所へ持って行かせ周囲の様子と合わせて鑑賞させることで、布の色や固定方法の工夫を考えることができるようにする。 ○ 気に入った場所の写真を撮らせておき、比較できるようにしておくことで、自分のイメージに合った展示場所を選択することができるようにする。 ○ 仲間と用具を共用させたり助け合わせたりすることで、仲間から着色や固定等のヒントを得ることができるようにする。		①	
			行動観察		
本時 生かす (1)	4 作品を自分のイメージに合った場所に展示し、鑑賞する。〈1時間〉 ○ 作品の展示と記録 ○ 鑑賞	○ 展示した作品の写真を撮らせたり、こだわったところをロイロノートのカードに記述させたりすることで、自分の作品の意味や価値を見いだすことができるようにする。 ○ 互いの作品の「よさ」を伝え合わせることで、仲間の作品の意味や価値を見いだすとともに、仲間からの意見を基に改めて自分の作品の意味や価値を見いだすことができるようにする。	① ②	①	
			作品 行動観察		
				②	
			作品 記述分析		

8 本時の目標

表したいイメージに合わせて作品を展示し、自分や仲間の作品の意味や価値を見いだすことができる。

9 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
1 本時の学習内容について話し合う。 ○ 参考作品の題名 ・ 風ビュービュー  【廊下に展示された参考作品】 ○ 題名の理由 ・ 本物の洗濯物が風で飛ばされそうになっているように見えるから。 ○ 本時のめあて 作品を展示し、よさを伝え合おう。 2 本時の活動について確認する。 ○ 作品の展示について ○ 鑑賞の手順について 3 イメージに合わせて作品を展示し、記録する。 ○ 作品の展示 ・ イメージに合った場所へ移動し、置いたり吊るしたりして展示する。 ○ 記録と提出箱への提出 ・ 作品の写真と併せて、題名とこだわったところを記述し、ロイロノートの提出箱へ提出する。  「土の中からトルネード」 うねりながら土の中から出てきた不思議な植物を表現した。画用紙を破くことで、植物の力強さと勢いを表現した。 【作品の写真】 【題名とこだわりを記述したカード】 4 仲間の作品を鑑賞し、感じたり考えたりした「よさ」を、題名を付けることで伝え合う。 ○ 「よさ」を基にして付けた題名とその理由の伝え合い ・ 題名とその理由はカードに記入し製作者へ送信する。 「まぼろしの植物」 植物の、竜巻みたいな形や、まだらな灰色が、現実にはない感じがするから。 等 5 本時の学習をふりかえる。 ○ 感想の提出 新たな題名を付けてもらえてうれしかった。意識して着色はしていなかったが、確かに不思議さを表現できていると思う。 等	○ 「いいな」と感じたり考えたりしたことを基に、参考作品の題名を付けさせる。その題名にした理由について話し合わせることで、仲間の見方や感じ方のよさにふれることができるようにする。 ○ 形や色、動きやバランス、全体的なイメージ等の造形的な視点を基に題名を考えているということを確かめることで、その視点をもって自分や仲間の作品を鑑賞することができるようにする。 ○ 展示の工夫については、前時までに決定させておく。ただし、時間内であれば、計画を変更してもよいことを伝えることで、自分にとっての意味や価値を最後まで追求することができるようにする。 ○ こだわったところが記述できない子どもに対しては、次のような手立てを講じる。 ・ これまでの記録をふりかえらせることで、製作中の思いを想起することができるようにする。 ・ 「なぜその色にしたのか」等、行為の理由を問うことで、形や色、動きやバランス等造形的な視点で作品を見つめることができるようにする。 ○ タブレット型端末で全員の写真とカードを参照できるようにしておくことで、誰の作品がどこに展示されているか分かるようにするとともに、製作者のこだわりを知ることができるようにする。 ○ 同じグループの仲間の作品は必ず鑑賞させることで、全員が仲間から意見をもらえるようにする。 ○ 仲間の作品の「よさ」を見いだせない子どもには、自分の作品のこだわったところと比べて、似ているところや違うところを探させることで、「よさ」に気付くことができるようにする。 ○ 仲間から送られてきたカードと、自分がこだわったところを記述したカードを比較させながら読みさせることで、自分の作品の新たな意味や価値を見いだすことができるようにする。

10 本時の評価規準

形や色等の造形的な視点を基に鑑賞し、自分の作品のこだわったところや、仲間の作品を見て感じ取ったり考えたりした「よさ」を記述し、伝え合っている。
(思考・判断・表現②)【作品・記述分析】